

発行責任者

上田高女・染谷丘高校
東京同窓会
会長 小林 ぶき子
〒177 東京都練馬区
大泉学園町2-27-11
TEL 03-921-7340

呼 応



長野県上田染谷丘高等学校
創立八十周年記念 製作福家あや
一九八一・一〇

会報創刊号によせて

上田高女・染谷丘高校東京同窓会

会長 小林 ぶき子
(本41回卒)

木の葉吹く風もうすら寒く、冬支度になにかと心せられる日々でございます。

会員の皆様ごきげんいかががおすしでいらつしやいますか。

去る十月五日の総会には多数の会員の皆様に御出席いただき、盛大な会を催すことができました。ほんとうに有難うございました。又十月二十八日に母校を訪問致しまして、学校当局と母校同窓会の役員の皆様の大歓迎を受け、それは楽しい旅をして参りました。これもひとえに、会員の皆様のご協力の賜物と、深く感謝いたしております。

私達の東京同窓会は、創立五十余年を迎えました。昭和のはじめ、遠くふるさと信州を後に、東京へ嫁いできた同窓生の、故郷を恋い、友を想う気持ち、格別で、通信費、交通費総て自弁で、第六回卒業の、故西沢卯女様、第十七回卒業の芦田愛子様が世話人となり、その他多数の幹事の方々、在京同窓生の心に美しい友情の灯をともして下さったのが同窓会のはじまりでした。昭和九年三月六日(旧地久節)に日本橋白木屋で産ぶ声をあげて後、毎年一回、同窓会を開いてきました。戦争のため止むなく休会に追い込まれ、世情が落ち着きを取り戻した昭和二十九年に中野の日本閣で再び集まりを開始することができ今日にいたっております。

たっております。

戦後再開されてからの同窓会は、年毎にその活動の幅を拡げてまいりました。ふり返つてみますと、年一回の定期総会開催のほか、「会則の作成」「名簿の発行」「母校企画事業に係る募金活動」等があり、近くは、昨年(昭和六十年)皆様にお届けした同窓会史「あゆみ」の編纂がございました。本年は、会員の皆様に会の様子を少しでもお知らせできるものと思ひ、さ

さわかな会報「呼応」を編集いたしました。

五十九年秋、計らずもふつつかかな私

が会長を仰せつかり、大過なく一期が終りました。会のため、陰になり日向になって協力して下さった役員の皆様のおかげと、深く感謝いたします。これより、二期目に入りますが、私達役員は、輝かしい伝統のある母校の繁栄と、東京同窓会の堅実な歩みに寄与すべく精一杯努力致しますので、会員の皆様にも絶大なご支援をよろしくお願い申しあげ次第でございます。

十一月も半ばを過ぎまして、信州はめつきり冬らしくなつてまいりました。こちらでは、「烏帽子岳」に三回雪が来ると、平地にも雪が降る。」と申しておりますが、この十一日には、平地に

東京同窓会のみなさまへ

長野県上田染谷丘高校同窓会

会長 小林 宏子
(本38回卒)

もちらちらと雪が舞いました。この時期になりますと、漬物の用意で急に忙しくなります。大きな樽に水を張って、天候を見ながらの仕事に追われております。十三日の晩、小林会長さんから

六十一年の総会から

東京同窓会庶務 小幡 道子
(本45回卒業)

良いお天気——。皆さま練合せて来られるかしら——と 思いめぐらしながら農林年金会館への坂をのぼりました。

上田高女・染谷丘高校東京同窓会第三十七回定期総会は、十月五日(日)にふるさとの空気がたっぷりに行われました。

信州からは、母校両角校長、岩下同窓会顧問、白鳥副会長、事務局から寺西様が遠路わざわざお越し下さいました。

第一部総会は四階の見はらしのよい会場で式次第ののっとり滞りなく行われました。十月ということで和服の方

お電話がありまして、東京同窓会の会報に何か書くように、とのことございまして、ざらざらに荒れてしまった手にペンを握つております。

私が、東京同窓会を初めて存じ上げましたのは、本会の副会長になりました五十八年のことでございます。その年、岩下会長さんに連れられ、東京同窓会の総会の会場、サンケイ会館に出席させていただきました。会場にまいりまして驚きましたことは、本会の総会出席者の何倍もの方々が、賑やかに華やいた雰囲気集まっております。

しゃつたことでございます。当日は、諏訪彰先生の地震対策の講演がありま

がチラホラ見えないへん美しうございました。喜寿を過ぎる程のおは様からお一人だけでしたが若い青年までみな上田の学生時代への思いを一つに百年の知己という親しみでございました。いよいよ第二部懇親会は席を移して大広間へ——。卒業年度でしつらえたテーブルをつくうち、上田高校関東同窓会から神野会長、柳田副会長、清水幹事長、長藤会計長、長野県人会連合会から藤原専務理事もお祝ひにかけつけて下さいました。

最高齢の花岡まさ様(本科二十四回卒)の音頭で乾杯し、宴たけなわ——。当時の学校のシンボル——同窓会館

かな時を過ごさせていただきました。二回目は、六十年、東京農林年金会館に出席させていただきました。この年は出席者も一層増えておられました。そして、東京において各方面にご活躍されておられる、会員の方々のご紹介がありまして、他支部にはみられない東京同窓会の一面を見せていただきました。

本年も又、農林年金会館で百二十名の出席者があったとお聞きしました。広い地域から、このように多数の会員がご集まりになって、総会がお出来になることは、役員の皆様のお人柄とご努力によるものと存じ、頭の下がる思いでございます。

又、本年は十月二十八日に、有志を募つて母校をお訪ね下さいましてありがとうございました。時まさに秋、母校の唐楓も紅葉の真盛りで、東京同窓会の皆さまをお迎え申し上げるには絶好の日和でございます。

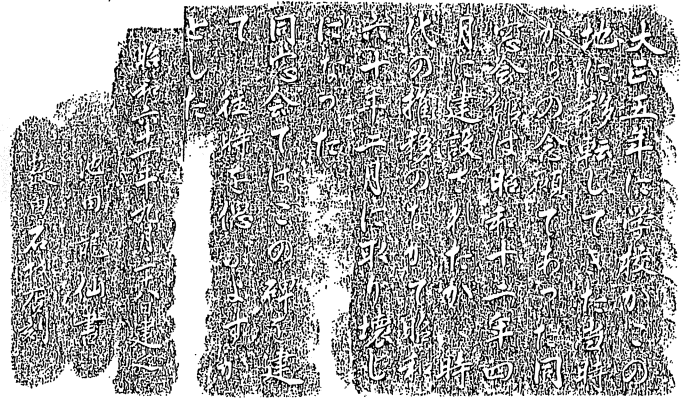
常に一歩いっば確実に歩みつづけておられる東京同窓会、本当に頼もしい限りでございます。今後も一層のご発展を願ひまして、ペンを置かせていただきます。

同窓会館

長野県上田高女高等学校
長野県上田染谷丘高等学校

が白あり等の被害でとりこわれ跡地へ記念碑がたち、その除幕式までの経緯や様子など、岩下顧問よりつづさにお話しがありました。余興では高橋寿恵子様(本科二十九回卒)の長良川艶歌の舞踊もしつとりとして全員を魅了しました。今回はじめて参加された方も多く、ときおり笑い声が高く聞きました。閉会の時刻がせまつて切角のコーラスも来年に予約し、全員で「信濃の国」の歌声をあとの後髪をひかれつ、お別れいたしました。高校四回卒の方々は、これを機に東京同期会をつくりたいといつておられました。

会員のみなさまに—— お願い——
東京同窓会の名簿を、昭和六十三年に発行する予定です。名簿には、昭和六十三年三月三十一日現在の会員を登録しますので、年度会費の納入をお忘れなきようお願い申し上げます。
東京同窓会は会運営費に当てるため、母校とは別個に、年度会費年額千円をいただいております。



碑の由来
文・両角校長
揮毫・池田龍仙先生

四十年ぶりの母校訪問

兼子 芙美代
(本46回卒業)

今私の手の中には、美しく色づいた一枚の葉があります。これは四十年ぶりの母校訪問の時、校庭でそっと拾ってきたものです。信州の秋もまっ盛りの十月二十八日、一時、上田駅東急イン前には、汽車から降りたなつかしい顔が並びました。総勢十八名、タクシーに分乗、先ず旧上田高女同窓会館跡の記念碑前で写真を撮り、それから山口に移った新しい染谷丘高校の同窓会館にて上田の同窓会役員の方々と会食、心のこもった手造りのお料理と共になつかしい母校のお話はずみでした。会食後、新しい校舎の中の教室や図書室、プール、テニスコート等案内していたとき、そのすばらしい設備に唯々感激するばかりでした。後髪を引かれつ、母校を後にしたのは、もう太郎山の姿が夕日にかけり、上田の町に灯がちらちらと灯り始める頃になってしまいました。

想えば昭和十九年の三月から二十年の八月迄私は疎開先の依田村(現在の丸子町)から西丸子線と別所線にのり、上田の鐘紡工場に通う一学徒でした。

忘れもしない昭和二十年八月十三日、西丸子線の鈴子駅で、乗っていた電車が機銃掃射され、何人かの人が怪我をした事件は、その後長い間私の胸をつまらせる悲しい出来事でした。その光景は今も私の青春時代のモニュメントとして深く心に残って居ります。しかし私は、今回の母校訪問で、太郎山を背にすばらしい環境の母校で、のびのびと勉学に運動に励む後輩の姿を見て考えました。この平和のもとを



記念碑除幕式風景 (昭和61年9月28日)

東京同窓会を思うと佐藤松苑様が浮んで来ます。それ故計報を耳にした時は気落ちし淋しく悲しゅうございました。私が昭和四十年本部副会長となり、東京同窓会に出席させて頂いた時、佐藤様は会長になられて三年目で、その時初めてお会いし柔らかな印象を受けました。当日の出席者は二百人を越え、私はその盛會に驚き、先輩の意志を継いでこれ程の会員を掌握しておられる偉大なお力に敬服致しました。「会は人の和が大切」と佐藤様がおっしゃったこの一言は我が身にしみ、それを心としてこそ、私はこの十九年間母校同窓会長等の重責を果たせたと思っております。

昨年総会の後私の退職の慰労会として幹部役員有志で会を開いて下さった折や、常よりお静かでした。そのときは、お年のせいかと思いましたが、「こんな楽しい和やかな会が出来ますもの。又来年も元気で会いましょう」とお別れしました。ことしの八月、転居のお知らせの中に、簡単に入院加療中とありました。その前後の様子も存じ上げなかったため、気候のよい所でご静養かと思ひ手紙でお見舞をしました。その後気になして居りました所、九月十六日付の娘さんからのお手紙で「母は只今点滴だけの毎日、意識もはっきりしません。岩下さんのお話をしたらよく分り、うなづき喜んでおりました」との事、快くなるよう祈つたのですが、二十二日にお亡くなりになりました。うつろな心で、ご生前に佐藤様から頂いた白木蓮の絵をみつめて悲しみにくれたこと

佐藤松苑様の追憶

本部同窓会顧問 岩下止代
(本23回卒業)

皆様との親近感が増し、年一回の出席が楽しみとなりました。昭和四十五年母校新築の際の募金は魄力ある活動の下に、東京支部の皆様には大変なご協力を頂き、特に佐藤様ご自身では自作日本画の個展を開き、その売上金、当時で百万円という多額のご寄附を頂き、本部・他支部の大きな励みになりました。

どの会にも時には波瀾無きにしもあらずで、一時大変お悩みの時があり、私に下さった長い手紙は、会を思う切なお心にあふれ涙なしには読めませんでした。佐藤様は本当に母校と同窓会を大事になさった方でした。また、時々、私が故郷の味をと胡桃青豆等お送りしますと、栄養があるので味噌に又あえ物に大事に使うとおっしゃって、それはそれは喜んで下さいました。

また、卒業後佐藤様は和村の小学校に、姉は隣村の大門小学校に赴任しました。上田へ遊びに出た土曜日の午後など、二人は上田から当時の乗合自動車で長久保まで行き、右と左に別れられぞれ任地へ戻りました。そして時折二人は互いに住まいを訪ね合い、生徒の事、授業の事等、苦楽を語り励ましたそうです。

また、卒業後佐藤様は和村の小学校に、姉は隣村の大門小学校に赴任しました。上田へ遊びに出た土曜日の午後など、二人は上田から当時の乗合自動車で長久保まで行き、右と左に別れられぞれ任地へ戻りました。そして時折二人は互いに住まいを訪ね合い、生徒の事、授業の事等、苦楽を語り励ましたそうです。

病みてなお会の向上語りりと
きくだに君の心根尊し
竹島は娘(こ)の住なれど
友の居ぬ地で病みし君 淋しかりしか
賜りし白木蓮の絵画(え)を見つめ
君今はなく我は悲しき
秋くればくるみ青豆故郷に
思い馳せると喜びし君



また、卒業後佐藤様は和村の小学校に、姉は隣村の大門小学校に赴任しました。上田へ遊びに出た土曜日の午後など、二人は上田から当時の乗合自動車で長久保まで行き、右と左に別れられぞれ任地へ戻りました。そして時折二人は互いに住まいを訪ね合い、生徒の事、授業の事等、苦楽を語り励ましたそうです。

☆木枯らしが街角を冷たく吹き抜ける年の瀬に、東京同窓会報「呼応」第一号が誕生しました。なにぶんにも初体験のこと。不行き届きの点はご容赦ください。
☆送り仮名、仮名や漢字の使い分け等は、ご寄稿くださった方のご意志を尊重し、原稿どおりにさせていただきます。
☆発送時の事務は、万全を期しているつもりですが、万一、宛名の誤記、切手の貼付もれなどございましたら、ご面倒でもご一報くださいませ。
☆次号からは、紙面を会員の皆様に開放致します。「呼応」の名にふさわしく、お互いに、「呼びかけ」「応える」場として、この会報を活用し、育てていって頂きたいものです。
☆最後にひとこと——どうぞ佳いお年を——

編集後記

本11	住山美智子
本12	河上えい
本15	町田と章
本19	沢田とも
本21	佐藤学
本24	滝沢誠子
本26	竹内ハギ
本31	橘高雅子
本38	上田恵子

お知らせ
長年、東京同窓会のためにご尽力くださった東京同窓会顧問佐藤松苑様は、薬石効なく去る九月二十二日逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。
東京同窓会役員一同